

土地利用の主体と 地方自治体の支援について



山形県置賜総合支庁
農村計画課長 高橋信博

農山漁村を次代につなぐ環境整備

若者が主役
となった
地域づくり

- ・ 農業者の高齢化
- ・ 農林水産業停滞
- ・ 集落活動弱体化

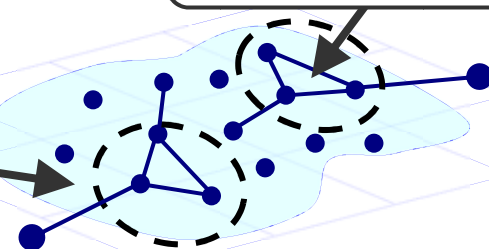
コーディネ
ート

- ・ 若者が主役となれる地域の環境づくり
- ・ 土地の有効活用と儲かる農業の展開
- ・ 集落内外の多様な人材・技術の活用

農山漁村を次代につなぐ
環境の整備が “ 要 ”

里地(平地農村)
～里山(中山間)モデル

里海(漁村・砂丘地)
～里地(平地農村)モデル



① 世代間相互の合意形成モデル

里海～里地、里地～里山のモデル地域を設定し、現役世代(ある意味高齢者)と若者世代が話し合い、合意形成された地域土地利用計画を策定

② 若者主体の地域経営構想モデル

若者が中心となり、農家・非農家の枠を超え、農林水産業を起点とした雇用と定住を可能にする地域未来構想づくり

足りないもの？

- ・ 現役世代と後継者が話し合う場
- ・ 土地や地域資源がお金を生む仕組み

地域活動上の課題整理

- ・ 農山漁村集落ごとの課題
- ・ 企業等よそ者参画の課題

中山間地域の現状

(中山間直弘集落代表者へのアンケート)

【地域(集落)住民の方々が10年後の生活を考えたとき、不安に感じることはありますか】

- ・ 後継者

79%

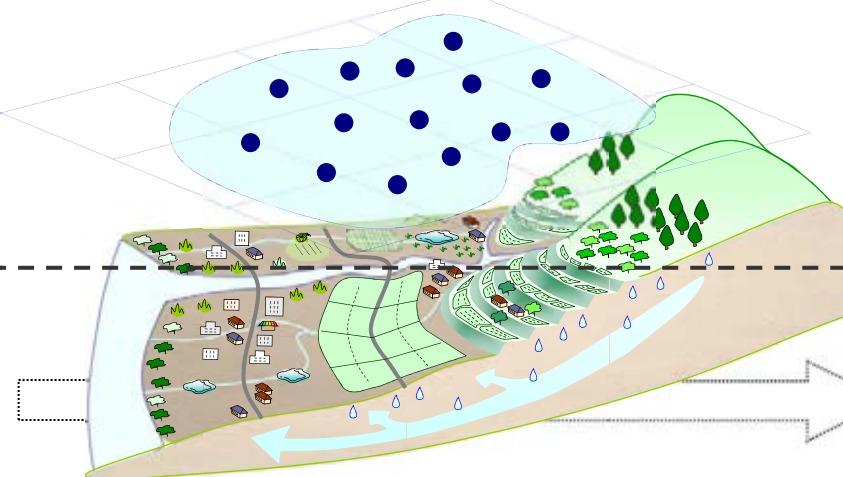
- ・ 農地、水路、山林の維持

77%

- ・ 草刈などの共同作業

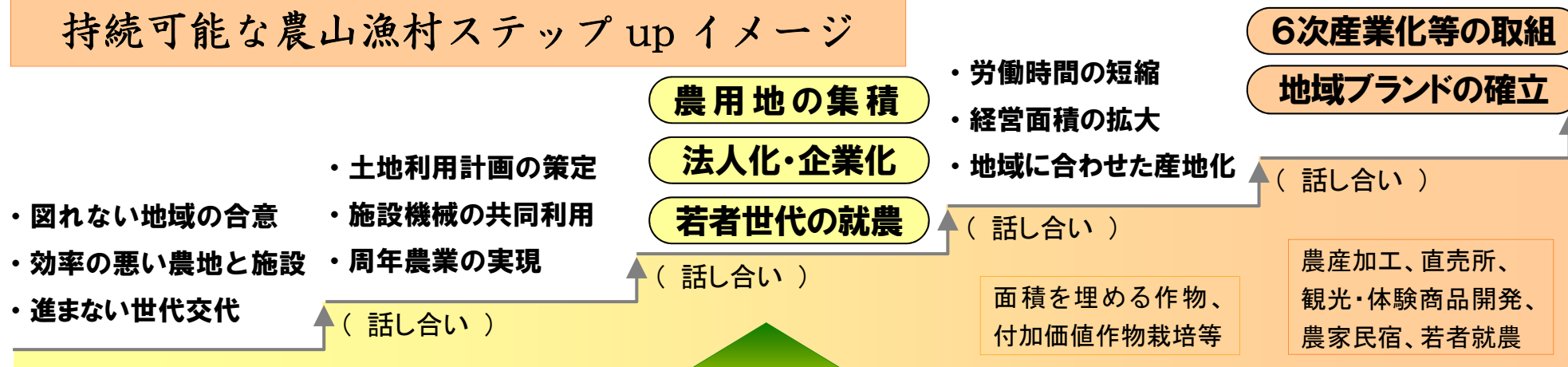
70%

[農山漁村地域づくり課題調査(山形県)]



農山漁村を次代につなぐ環境整備

持続可能な農山漁村ステップ up イメージ



若者が主役 となった 地域の経営

- ・ 農業者の高齢化
- ・ 農林水産業停滞
- ・ 集落活動弱体化

- ・ 現役から若者への世代交代を促進
- ・ 持続した営農と新たな地域産業づくり
- ・ 若者が定住できる地域の環境づくり

人・農地プランの実質化

コーディネート

中山間直接支払の集落戦略

農山漁村を次代につなぐ 環境整備

① 世代間相互の合意形成実現事業

現役世代である高齢者と若者世代が、地域の農業について徹底して話し合い、合意形成された実効性の高い「人・農地プラン」や「集落戦略」を完成させる(その環境を整える)

現役世代 ⊕ 若者世代による 徹底的な話し合いで課題解決

② 若者主体の地域経営モデル策定事業

若者世代が、10年、20年後を目標に、農林水産業を起点とした、地域での雇用創出や定住できる環境について話し合い、実践につなぐ未来構想づくりに取組む(持続営農と6次産業化など)

農山漁村を次代につなぐ環境整備 (土地利用と括りづけの考え方)

🔒 集積と作物の選定

- ・ 基盤整備を契機とした農地の集積と作物の選定（団地化など）
- ・ 利便性改善による労働時間軽減
- ・ 耕畜連携による労働力の軽減



🔒 広い面積を利用

- ・ 広域的な土地利用計画の策定
- ・ 手間のかからない作物生産
実取りとうもろこし（飼料）
山菜や薬草など

